ハジメマシテ ドウゾヨロシク

＊―新しいALTを紹介します

スティーブさん

“ニイツノミナサン、ヨロシクオネガイシマス”。さきごろ、イギリスから陽気な外国語指導助手（ALT）ステファン・デビッド・アドシェットさんが来日し、今月から市内の中学校で「生きた英語」を指導することになりました。そこで、新しく新津市民になられたスティーブさんにまちの印象などを聞いてみました。

松坂流しの仮装踊りに参加

◇フルネームを教えてください。

STEPHEN DAVID ADSHEAD（スティーブン デビッド アドシェッド）です。スティーブと呼んでください。

◇生年月日をお聞かせください。

一九七四年四月六日生まれの二十一歳です。

◇出身はどちらですか。また、そこはどんな所ですか。

イギリスのバーミンガム市です。バーミンガムは人口百五十万人の都市で、いろんなお店や素敵なナイトクラブもたくさんあり、ついでに公害もたくさんあります。また、コンサートやスポーツイベントの開催地としても有名な所です。

◇大学での専攻は何でしたか。

「歴史」でしたが、毎日テニスばかりしていたので、テニス専攻といえるかもしれませんね。

花雄親方とチャンコで食事

◇趣味は何ですか。

テニスと卓球、バドミントンです。トランプの「ブリッジ」も大好きです。

◇好きな食べ物を挙げてください。

山の景色が美しく、住んでいるインドカレーです。日本食では「ヤキソバ」がおいしいですね。

◇新津のまちの印象はどうですか。

多分、弁護士か教師になると思います。まぁ、これは冗談ですが、「変な声」が出せるので『ランボー』とか、『ウォーターワールド』とか、ホラー映画とかの声優なんてのもいいですね。

◇最後に、市民の皆さんに一言お願いします。

ボクの日本語が上手になるまで、もう少し我慢してください。そして、ボクが教えることになる生徒のミナサンへ、「アメリカの番組などできるだけたくさん見て、英語に慣れてくださいね」

フルートが得意です

お買物、ご用命は市内で

“今売れている人気商品ご紹介”

ヘッピンロール 1本 1,000円

「ヘッピン」とは、シュー生地とクリームを合わせて焼いたクレープ状の皮で、生クリームと栗を巻いた人気商品です。

＊新潟の週刊誌にも取り上げられました。

コーヒー祭り 100g-300円
9月1日(金)・2日(土)・3日(日)

くりーむけーき 1本 600円

非常にソフトなシフォンケーキにカスタードクリームを、たっぷり入れた人気商品です。

にいつ ホーサカヤ
本町2 ☎22―0112

☆教育委員会賞

僕達にできる福祉

清水 洋明（金津中学校3年）

市川歩さん

長沢広美さん

井田貴久君

小杉大介君

清水洋明君

今年になって金津中学校に、福祉委員会という委員会ができました。委員会の主な仕事内容は、空き缶回収やベルマーク集め、募金活動などです。四月十七日、僕はその福祉委員会の委員長に任命されました。福祉委員会の空き缶回収や募金活動をするというのは分かっていたものの、それらがどこに送られるのか、特に空き缶の行き先については詳しいことは知りませんでした。

ある日の委員会で先生から、空き缶は『山の家』に送るのだという話を聞きました。そこであいさつを兼ねて、「山の家」がどんなところなのか見学に行くことになり、福祉委員の三年生全員で参加しました。そこは市営球場のすぐ近くで、学校から車で十分くらいの所にあり、知能的、身体的に障害のある人々、いわゆる身体障害者のための施設ということでした。玄関に入った時、山の家の職員の人が歓迎してくれました。そして、山の家について話を聞くことになりました。まず山の家には、中学生から五十歳くらいまでの人たちが通っており、そこで全員が一緒に食事をしたり、絵を描いたり、話し合いの時間があったり、まるで学校のように共同生活をしている、ということを感じました。ほかの高校の文化祭に自分たちの作った作品を出して売ったり、そのほかにもいろいろな活動をしているそうです。

部屋の壁をふと見た時、一枚の写真が貼ってありました。その写真の子について質問すると、「その子は前にこの施設にいたけど、隣の新栄学園に移ったんですよ。」と教えられました。新栄学園とは、山の家で状態がよくなった人たちが移る場所であり、社会に出るための仕事などをするための施設と聞きました。写真の子はきっと努力したんだと思います。

そして話を聞き終えて僕たちの帰る時間がきました。先生が迎えに来るまで待つことになりました。その時、山の家の生徒らしい人が一人、ぽんやりした足取りで部屋に入ってきました。僕にはその人の話している内容がよく通じませんでしたが、職員の人たちはその人とごく普通に会話していたのです。なにより本当に普通に接していました。これは、考えてみれば人として当然のことですが、すごいなあと思いました。障害を持った人たちのために手を貸して、社会へ出られるようにと一緒になって努力し、分かり合うことは尊敬できることだと思います。

もし、山の家の人たちが社会に出たときには、自分たちをお世話してくれた人たちのことを思い出して頑張って欲しいと思います。

さて、皆さんは、障害を持った人と話をしたりしたことがあるでしょうか。その時どんなことを思い、どんな行動をとったでしょうか。

体に障害を持った人たちは、社会に出るために一生懸命に努力し、それらの人々を支える身内や関係者も、必死に助けようとしています。そんな人たちに差別や偏見を持ったことはなかったでしょうか。

僕は山の家に行って、施設の職員の人たちの努力や、人として当たり前の接し方を学びました。自分でも、健常者は偉くて障害者は別、というようなことを心のどこかで考えていたと思いますが、今回山の家に行ってみて、それが間違っていたことがよく分かりました。

帰りの車の中で、活動の一つである空き缶回収を活発にしていこうという気が起きてきました。

五月初め、空き缶回収呼び掛けのポスターを作成しました。その呼び掛けのせいか、全校生徒が空き缶を持ってきてくれて、生徒玄関は空き缶の入った箱でいっぱいになりました。たくさんの空き缶を見ていると、何となくうれしく、充実感が込み上げてくるような気がしました。六月になり、その空き缶をつぶす作業を行いました。あとは重さを計り、山の家に送るだけです。

空き缶は業者に引き取ってもらうとお金になります。そしてそのお金で山の家の人が、車イスやそれらの日常活動に必要な品を購入するのだそうです。でも空き缶は一㌔㌘で三十円くらいにしかなりません。三十円のお金をつくるために、だいたい五百個以上の空き缶が必要です。車イス一台贈るにも、何年もかかるかもしれない、そういう意味では大きな目標です。でも大勢で協力すればきっと、山の家の人たちに役立つことができると思います。終業式の全校集会でも、夏休みにアルミ缶を集めておいてください、近所の人などにも声をかけて、たくさん持ってきてください、と再度お願いをしました。

今回施設に行ったりして、今まで気が付かなかったことを考えさせられました。

豊かな社会とは、僕たちも、そして障害を持つ人たちも互いに支え合って生活していくことだと、何となく考えるようになりました。

金津中の福祉委員ができること、また、僕たちにできることは何かを考え、一歩一歩前進していきたいと思います。